



校長室だより 2

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和8年3月24日

第38号(最終号)

23日(月)、5年生から4年生へとサケの稚魚飼育の報告会が行われました。総合的な学習の時間での関連学習を含めると、1年間近くサケのことを学習してきた5年生です。この日は、中でも12月から約3か月間、実際に自分たちが発眼卵から稚魚へとサケを大切に育てたことを中心に活動報告を行っていました。

去る12日(木)に飯沢川に放流したサケの稚魚は今どうしているのでしょうか。厳しい自然界の中でも何匹かはたくましく生き抜いてくれることを祈りましょう。そして、平成7年度から続くこの「サケの学習」が、ふるさとの未来といのちの大切さについて考える大切な学習として、来年度以降も本校に受け継がれていくことを願います。



村椿小学校の皆さん、ありがとうございました ~6名の教職員が転出します~

このたびの年度末の人事異動で6名の教職員が転出することとなりました。新聞発表が例年よりも早かったため、本日24日(火)に子供たちへの挨拶を、簡単にですが直接伝えることができました。今回の校長室だよりでも改めて紹介と本人からのコメントを載せます。

★松嶋隆徳教頭先生(県教委生涯学習文化財課へ)

理科等の授業のほか、総務担当として学校内外のありとあらゆるところに目を配り、連絡調整を日々行っておられました。宿泊やスキー等の校外学習の引率、サケの放流の下準備等、いつも丁寧な仕事ぶりでした。PTAや学校運営協議会の事務も担当し、まさに学校運営の要とも言える存在でした。

「素直で明るい子供たち、学校への理解があり協力的な保護者の皆様に支えられ、居心地のよい3年間でした。ありがとうございました。」

★3年担任 小西智之先生(富山市立岩瀬小学校へ)

6月に育児休業から復帰し、3年担任と図書関係の仕事をしていただきました。関西弁のいつもどこか温かい語り口が持ち味ですが、ここぞというときはとことん子供に向き合って指導する熱血漢でもあり、子供たちによく慕われていました。玉椿集会で特技のテニスを披露してくださったこともありました。

「6月に復帰してからあっという間でした。遠くから通うのは大変でしたが、学校での毎日は楽しかったです。皆さん本当にありがとうございました。」

★「わかば級」担任 渡邊 優菜 先生(桜井小学校へ)

大学卒の新規採用から7年間もの間本校に勤務し、たくさんの学年の子供たちを担任されました。今年度は「わかば級」担任として、4年生全体にも目を配りながらの毎日でした。いつも優しいまなざしと丁寧な対応で、子供たちの笑顔とやる気が増えた1年間でした。

「7年間も過ごした思い出いっぱいの村椿小学校。皆さんと会えなくなるのは寂しいですが、今後の活躍を楽しみにしています。」



★養護 吉崎 祐実子 先生（石田小学校へ）

養護教諭の板本先生の育休代員として、3年近くもの間本校に勤務され、お母さんのような温かい心で、全校児童の心と体の健康を見守り続けていただきました。その一方で、緊急の案件には専門的な立場から適切に情報を流していただくことで、校長としての判断と対応が素早くできました。頼りになる保健の先生でした。

「村椿小学校でたくさんの思い出ができました。皆さんありがとうございました。」

★事務 森山 由美さん（入善町立桃李小学校へ）

教材備品の管理や予算の執行、児童集金や各種申請、教員の給与や旅費に関する業務等を一手に引き受けておられました。テキパキとした仕事ぶりで、事務の立場から学校運営の一翼を担っていただきました。

「ようやく村椿小学校での仕事に慣れてきたかな、と思っていたところでしたが、次の学校へ行っても頑張りたいと思います。」



「校長室だより」もいよいよこれが最終号です

そして、私もこのたび役職定年を迎え、この「校長室だより」をこれにて終了することとなりました。

お陰様で、校長としてこれまで7年間、3つの学校で勤め上げることができました。校長1年目（滑川市の小学校でした）の始業式の翌日から「校長室だより」を発行し、毎年平均40号、通算約280号を発行しましたが、「（忙しくて）書きたいのに書けない」ことはあっても「書くことがない」ことは一度としてありませんでした。目の前の子供たちの生き生きとした姿、そして日々奮闘する先生方の姿を見ていると、そのことを保護者の皆様や地域の皆様、HP上でこのたよりを読んでくださる皆様に、広く伝えたいと思うことばかりでした。また、自分の考えることを織り交ぜながらエッセイのように書き連ねたことも多々ありました。独りよがりな乱文も多々あったかと思いますが、お付き合いしてくださった皆様には感謝の心でいっぱいです。

とりわけ、最後の2年間は我が母校であるこの村椿小学校に勤めることができ、そのことだけでも十分幸せなのですが、村椿の子供たちが実に素直で、保護者の皆様、地域の皆様も、学校に対して（校長に対して）非常に理解があり協力的だったことが大変ありがたかったです。職員室の雰囲気もとても前向きで、校長が思いついたことや持ち掛けた企画に「やってみよう」と乗ってくれる、また先生方からも新しいアイデアが出てくる、その素晴らしい雰囲気（本当に村椿小学校の職員室はスペシャル・ワンチームでした）の中で、短歌づくりや計算大会等々、2年間の中で進化したり、新たな取組が生まれたりしていきました。子供たちもどんどん成長していきました。そうした様子を「校長室だより」でも度々紹介することができたのは、校長として何よりの喜びでした。ありがとうございました。

さて、私は4月より桜井小学校の一教諭としてもうしばらく働くことにいたしました。皆さんとお別れするのは大変さみしいのですが、村椿小学校での2年間の経験を生かし、新たに様々なことに取り組んでいきたいと思っております。同じ黒部市内ですので、また学校にお邪魔することや、ふと皆様にお会いすることもあるかと思っておりますので、その際は遠慮なく声をかけてください。私から声をかけることもあるかもしれません。

別れがあるから、その後にもまた新しい出会いがあります。村椿の子供たちに、また新たな素晴らしい出会いが待っていると信じております。前を向いて進んでいきましょう。皆様、これまで本当にありがとうございました。

寺島 紀子



今朝24日の新聞報道を見て早速挨拶をしてくださった地域の方々、「校長室だよりが楽しみでした」とのお手紙をくださった保護者の方もおられました。感謝いたします。皆様これからもお元気で！

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。